

「阪神高速 未来へのチャレンジプロジェクト」
第 1 回助成・事業実施報告書

1. 基本事項

団 体 名	NPO 法人プラス・アーツ		
事 業 名 称	防災プランナーズスクール	助成額	50 万円
申請事業の概要	防災プランナーズスクールとは、地域に愛され、広がり、根付いていく、強度を持った防災教育プログラム（種）を企画することができる次世代の防災教育の担い手を、プラス・アーツが伴走支援しながら育成するプロジェクトです。		
申請事業の目的	防災教育プログラムを企画することが出来る次世代の防災の若き担い手(防災プランナー)の育成		
関連する SDGs 目標	   		

2. 助成事業の実績・成果等について

これまでプラス・アーツと協働してきた 2 名のクリエイターと共に、防災プランナーズスクールの姿勢や想いを表すロゴマーク及びコピーライトを制作した。これによって社内的には防災プランナーズスクールプロジェクトが目指す未来の旗印となり本事業を持続して行く契機となり、対外的には本事業の目的を示すツールとなるのに併せて時を同じくして「高校生・大学生を防災教育の次の担い手として育成する」という考えに共鳴した高校生・大学生約 30 名に Facebook グループに参加していただいた。

また、防災プランナーズスクールの三本柱としている「ワークショップ」「フィールドスタディ」「グローバルプロジェクト」のうち、施設の見学・知識人による講座の実施等を行う「フィールドスタディ」のみ助成期間中の実施が叶わなかったが、防災教育の現場に根差した企画力を参加者と一緒を高めていくワークショップ、日本の防災教育のノウハウをもって海外の国と交流を行うグローバルプロジェクトに関しては下記の通り実施することが出来た。

【ワークショップ】

プラス・アーツの既存防災教育プログラム「お家の防災グッズなあに？クイズ」を改良する、というテーマで計 4 回のオンラインワークショップを実施した。制限時間内に防災グッズ 12 選を暗記するこのプログラムは既に全国各地で実施されている人気コンテンツであり、グッズを暗記するというシンプルな構造のため対象年齢の幅が小学校低学年～高学年と高く、どんなイベントでも実施しやすい特徴がある。ただその反面、暗記後に行う防災グッズの解説パートにて子どもたちの集中力が続かないという問題があった。防災グッズを“伝える”という意味では最もシンプルなこのプログラムを、高校生・大学生と一緒にオンラインワークショップ形式で改良を試みた結果、防災グッズを制限時間内に暗記するというプログラムの形はそのまま保ちつつ、その前後に「新たな目的を加える」というアイデアで着地した。具体的には、防災グッズを暗記した「後」にそのグッズを用いてフラッシュで示された災害時の困り事を解決することにチャレンジしてもらい、防災グッズを暗記する「前」にその旨を事前に伝えることで目的意識を持って暗記に臨んでもらえるようにした。

2022.06.24(金) 第 1 回ワークショップ「防災を“伝える”ことをまなぼう」#1 を実施

2022.07.10(日) 第 1 回ワークショップ「防災を“伝える”ことをまなぼう」#2 を実施

2022.07.28(木) 第 1 回ワークショップ「防災を“伝える”ことをまなぼう」#3 を実施

2022.08.12(金) 第 1 回ワークショップ「防災を“伝える”ことをまなぼう」#4 を実施

2022.09.18(日) 「イザ！3くまキャラバン！in さんちか」にてブース出展し実際に子どもを対象に実施

【グローバルプロジェクト】

2022.07.01(金) オンラインオリエンテーション実施

2022.07.20(水) 日本の学生(8名)を対象に身の回りの防災グッズについてのオンライン研修会

2022.09.13(火) 日本の学生(9名)からタイ・ネパールの学生に身の回りの防災グッズを紹介するオンライン交流会実施

2022.10.18(火) ネパールの学生から日本の学生に身の回りの防災グッズをプレゼンするオンライン交流会実施

2022.10.20(木) タイの学生6チームが身の回りのものを用いた防災工作についてプレゼンするオンライン交流会実施

2022.11 下旬 参加者のうち希望者3名がネパールに渡航し、現地で防災プログラムを企画・実施の予定

2022.02 上旬 参加者のうち希望者がタイに渡航し、現地で防災プログラムを企画・実施の予定



3. 課題分析や今後の発展性

1. 今回実施した第1回ワークショップや第1回グローバルプロジェクトは、全回オンラインでの実施となった。全国各地から高校生・大学生に参加いただけた反面、対面実施のワークショップに比べて双方向のコミュニケーションが成立しづらかった。今後は実施するプログラム内容に併せて適切な実施方法を採用していきたい。
2. 第1回ワークショップでの成果物を2022年9月18日に神戸市三宮で実施された防災イベントにてブース出展し、実際に子どもたちに参加してもらった。今後も本事業では企画の成果物を披露する場を想定してプログラムを実施していきたい。
3. 持続的に高校生・大学生と接点を作っていくことが大切だと考えている。これまでのプラス・アーツの企業との取り組みがどういった背景や企画書によって生まれたのか、ネパールプロジェクトではなぜ現地での教育モデルを作っているのか、理事長永田による神戸にて約10年続いている「イザ！美かえる大キャラバン！」解説ツアー、など単発で実施できつつも、防災教育の企画の裏側を知れるプログラムを三本柱の一つ「フィールドスタディ」で実施することで、参加の敷居低く裾野を広げることを目指す。それに併せて Facebook グループの参加者のプログラムへの参加率（アクティブ率）を高い水準で維持することを目指す。

4. 代表者又は担当者からのひとこと

「地域に愛され、広がり、根付いていく、強度を持った防災教育プログラム（種）を企画することができる次世代の防災教育の担い手を、プラス・アーツが伴走支援しながら育成するプロジェクト」である防災プランナーズスクールの展望に共感いただき、今回1か年の助成をいただけたことに感謝申し上げます。今後とも防災プランナーズスクールを始めとしたNPO法人プラス・アーツへのご支援のほどどうぞよろしくお願いいたします。